

令和6年度版『しょうがく しょしゃ 一ねん』年間学習指導計画・評価計画資料(案) 「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月(2時間)	2	表紙裏 ①・1	みつけて みよう かいて みよう	○学校の中にはいろいろな文字があることに気づき、文字や書写学習に対する関心を高めることができる。	○文字探しの方法を理解する。 ○校内をまわって文字を探し、見つけた場所とどのような文字が書かれていたか、話し合い、発表する。	アイウ	B: 校内にあるさまざまな文字を見つけている。 A: 校内にあるさまざまな文字を、よく見つけている。 支援: 文字が書かれている場所について知らせる。	B: 校内にあるさまざまな文字が何のために書かれているのか、考えている。 A: 校内にあるさまざまな文字が何のために書かれているのか、よく考えている。 支援: 文字が提示されていると便利である例について気づくようにする。	B: 校内にあるさまざまな文字を探そうとしている。 A: 校内にあるさまざまな文字を粘り強く探そうとしている。 支援: 文字はどんなところで見つけれられるか、身近な場所を説明する。
		2・3	きょうかしよのつか いかた	○教科書の使い方を知り、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○教科書の使い方について知る。	アイウ			B: 教科書の使い方理解しようとしている。 A: 教科書の使い方理解し、書写学習に対する意欲をもとうとしている。 支援: 他教科の教科書に置き換えて説明する。
		4～9	1 はじめの がく しゅう ①じを かく しせい ②えんびつの もちか た ③たのしく かこう	○よい姿勢・鉛筆の持ち方を知ることができる。 ○よい姿勢・鉛筆の持ち方で、いろいろな線や形などを書き、運筆に慣れることができる。	○よい姿勢・鉛筆の持ち方について知る。 ○「よいしせいの あいことば」「えんびつの もちかたの あいことば」の唱え歌で姿勢と持ち方を理解する。 ○よい姿勢・鉛筆の持ち方で、自分の名前を丁寧に書き、発表し合う。	アイ	B: よい姿勢・鉛筆の持ち方がわかっている。 よい姿勢・鉛筆の持ち方で運筆している。 A: よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことを理解している。 よい姿勢・鉛筆の持ち方で書き、運筆に慣れている。 支援: よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。 よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くポイント、具体的に説明する。	B: よい姿勢・鉛筆の持ち方について考えている。 A: 自分の姿勢・鉛筆の持ち方の良しあしを考えている。 支援: どこを正すと姿勢・持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。	B: よい姿勢・鉛筆の持ち方で書こうとしている。 A: よい姿勢・鉛筆の持ち方で積極的に書こうとしている。 支援: よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことができるように意識づける。 書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。
5月(3時間)	1	10・11	2 ひらがなの がく しゅう ①せんのおわりの かきかた	○終筆(「とめ」と「はらい」)の書き方を理解することができる。 ○鉛筆のよい持ち方で、終筆の書き方に気をつけて書くことができる。	○『くつ』を声に出して読み、空書してから、鉛筆で試書する。 ○『くつ』を指でなぞりながら、書き方を確かめる。 ○「とめ」「はらい」の書き方に気をつけて、『くつ』を鉛筆や水書用紙で練習する。 ○『くつ』を鉛筆でまとめ書きする。 ○「く」と「つ」のつく言葉を教科書22・23ページを参照して探して書く。	アイ	B: 終筆の書き方を理解している。 終筆の書き方に気をつけて書いている。 A: 終筆の形を整えて書いている。終筆の書き方の違いを理解している。 支援: 空書や水書用紙などによって、「とめ」「はらい」の書き方の違いを比べてみるができるようにする。「とめ」「はらい」の線を、声を出しながら運筆することで理解を促す。	B: 終筆の書き方について考えている。 A: 終筆の書き方の良しあしを考えている。 支援: 拡大文字などを使って、「とめ」「はらい」の正しい書き方が確かめられるようにする。	B: 終筆に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも終筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 終筆の書き方に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に終筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 終筆を、「びたつ」「すうつ」の言葉や動作で表すことで、意欲を高めていくようにする。 学習した以外の文字でも、同じ書き方があることに気づくようにはたらきかける。
		12	②かきじゅん	○正しい書き順について知り、指でなぞって確かめることができる。 ○書き順に気をつけて、正しく書くことができる。	○『ことり』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○『ことり』を書き順に沿って指でなぞり、正しい書き順があることを知る。 ○書き順に気をつけて、『ことり』『いけ』『つり』を練習する。 ○『ことり』を鉛筆でまとめ書きする。 ○これまでに学習した文字を書き順に気をつけて書く。	アイ	B: 正しい書き順について理解している。 正しい書き順で書いている。 A: 正しい書き順と、字形の整え方について理解している。 正しい書き順で、字形を整えて書いている。 支援: 正しい書き順や字形を具体的に説明する。 まちがえやすい書き順などについて具体的に説明する。	B: 正しい書き順について考えている。 A: 正しい書き順について、よく考えている。 支援: 拡大文字や色分け文字などを使って、正しい書き順や字形が確かめられるようにする。	B: 書き順に気をつけて書こうとしている。 他の書写場面でも、書き順に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 書き順や字形に気をつけて書こうとしている。 常に書き順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 教科書の文字をなぞるところを隣り同士で見合うことで、書き順を確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、書き順や字形に気をつけて書くよう意識づける。
		13	③じを かきはじめる ところ	○文字の始筆(書き始めるところ)の位置について、理解することができる。 ○文字の始筆の位置に気をつけて、正しく書くことができる。	○『にじ』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○教科書のイラストを見て、『にじ』は一ますを四分劃したどの部屋から書き始めるか話し合う。 ○始筆の位置に気をつけて『にじ』『うた』『へや』『かさ』を練習する。 ○『かさ』の「か」は、一度止めてからはねることを確かめる。 ○『にじ』『うた』『へや』『かさ』を鉛筆でまとめ書きする。 ○教科書22・23ページを参照して1・2・3の部屋から書き始める文字を探して書く。	アイ	B: 始筆の位置を理解している。 正しい始筆の位置で書いている。 A: それぞれの文字の始筆の位置の違いを理解している。 正しい始筆の位置で、字形を整えて書いている。 支援: 一ますを四つにくぎって、どのます目から書き始めるか、具体的に説明する。 それぞれのます目に番号をつけるなどして、書き始めるところの理解を促す。	B: 始筆の位置について考えている。 A: 始筆の位置の良しあしを考えている。 支援: 始筆の位置が適切ではない文字を例示して、正しい位置が確かめられるようにする。	B: 始筆の位置に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも、始筆の位置に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 始筆の位置に気をつけて、正しく書こうとしている。 常に始筆の位置に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 拡大文字などを使って、書き始めるところに気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、始筆の位置に気をつけて書くよう意識づける。
6月(4時間)	2	14・15	④せんのとちゅうの かきかた	○送筆(「まがり」「おれ・おりかえし」「むすび」)の書き方を理解することができる。 ○送筆の書き方に気をつけて、正しく書くことができる。	○『えのぐ』を空書してから鉛筆で試書する。 ○『えのぐ』のどの部分が「まがり」「おれ・おりかえし」なのかを確認し、書き方を理解する。 ○「まがり」「おれ・おりかえし」に気をつけて、鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○『えのぐ』を鉛筆でまとめ書きする。 ○「まがり」「おれ・おりかえし」のある言葉を書く。 ○『はす』を空書してから鉛筆で試書する。 ○『はす』で「むすび」の形の違いを確かめる。 ○「むすび」の形の違いに気をつけて鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○『はす』を鉛筆でまとめ書きする。 ○「むすび」のある言葉を書く。	アイ	B: 送筆の書き方について理解している。 送筆の書き方に気をつけて書いている。 A: 送筆の書き方について、よく理解している。 字形を整えて送筆を書いている。 支援: 教科書の図版をなぞりながら、それぞれの送筆において大切な点について注意を促す。 書きにくい送筆については、その部分を中心とした運筆練習を行う。	B: 送筆の書き方について考えている。 A: 送筆の書き方の良しあしを考えている。 支援: 字形が整っていない文字例を提示して、正しい送筆の書き方と比べることができるようにする。	B: 送筆の書き方に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも送筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 送筆の書き方に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に送筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 水書用紙などを使って、運筆の過程が意識できるようにする。 学習した以外の文字でも、同じ書き方があることに気づくようにはたらきかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	2	16・17	⑤にている ひらがな	○形が似ている平仮名について、違うところを理解することができる。 ○形が似ている平仮名について、違うところに気をつけて書くことができる。	○『あめ』『ぬの』を空書してから鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、同異点を見つけて話し合う。 ○「まがり」の書き方の同異点に気をつけて鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○『わた』『ねこ』『れんこん』を空書してから鉛筆で試書する。 ○教科書を見て、類似点を見つけて発表し合う。 ○書き始めの位置や形の書き方の同異点に気をつけて鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○形が似ている平仮名について、言葉で書いて確かめる。	アイウ	B: 似ている平仮名どうしの類似点や相違点を理解している。 似ている平仮名どうしの類似点や相違点に気をつけて書いている。 A: 似ている平仮名どうしの類似点や相違点を、よく理解している。 似ている平仮名どうしの類似点や相違点に気をつけて、正しく書くことができる。 支援: 「まがり」「おしかく」「むすび」に気をつけて丁寧に書くように声をかける。 それぞれのます目に番号をつけるなどして理解を促す。	B: 似ている平仮名どうしの類似点や相違点について考えている。 A: 似ている平仮名どうしの類似点や相違点について、よく考えている。 支援: 教科書を見て、文字のどの部分と同じでどの部分が違うのか、説明できるようにする。	B: 似ている平仮名どうしの類似点や相違点を意識しながら書くこととしている。 他の文字でも平仮名どうしの類似点や相違点に気をつけて書くこととする意識をもっている。 A: 似ている平仮名どうしの類似点や相違点を意識しながら、積極的に書くこととしている。 常に似ている平仮名どうしの類似点や相違点に気をつけて書くこととする意識をもっている。 支援: 似ている部分を指でなぞったり、違う部分を言葉で説明したりして確かめられるようにする。 学習した以外の文字でも、類似点や相違点に気をつけて書くように意識づける。
7月(3時間)	1	18・19	⑥ますめのなかのかくところ	○拗音・促音、句読点、かぎ、濁点の書く位置や大きさを理解することができる。 ○ます目の中の書く位置に気をつけて、言葉や文章の中で正しく書くことができる。	○『がっこう』『でんしゃ』『きゅうしゅく』を鉛筆で試書する。 ○『びょういん』『びょういん』など、文字の大きさによって違う意味の言葉になる例をあげる。 ○拗音・促音の書く位置や大きさを確認して練習する。 ○拗音・促音が入った言葉を探して書く。 ○ます目の中の書く位置に気をつけて、『おきなななぶ』を鉛筆で書く。	アイウ	B: 拗音・促音などの書く位置や大きさについて理解している。 拗音・促音などを正しい位置で書いている。 A: 拗音・促音などの書く位置や大きさについて、よく理解している。 拗音・促音などを正しい位置で、大きさに気をつけて書いている。 支援: 拗音・促音を大きく書くと意味が変わってしまう言葉を例示して注意を促す。 一ますを四つにくぎって、どの位置にどれくらいの大きさを書いたらよいか、具体的に説明する。	B: 拗音・促音などの書く位置や大きさについて考えている。 A: 拗音・促音などの書く位置や大きさの良さあしを考えている。 支援: 教科書を参照して、拗音・促音などの正しい位置や大きさが確かめられるようにする。	B: 拗音・促音などに気をつけて書く意識をもっている。 他の文字でも、拗音・促音などに気をつけて書くこととする意識をもっている。 A: 拗音・促音などに気をつけて、積極的に書くこととしている。 常に拗音・促音などに気をつけて書くこととする意識をもっている。 支援: どれが拗音・促音なのかかわかるように説明する。 学習した以外の文字でも、拗音・促音などの位置や大きさに気をつけて書くよう意識づける。
	1	20	⑦じの かたち	○それぞれの文字の、おおよその形を理解することができる。 ○文字の外形に気をつけて、正しく書くことができる。	○『せみ』『すいか』『のり』『ふうせん』を鉛筆で試書する。 ○『せみ』『すいか』『のり』『ふうせん』の文字のまわりの点線を鉛筆で囲む。 ○試書と教材文字と比べてから、文字の外形は「しかく」「さんかく」「まる」のどれに近い話し合う。 ○外形に気をつけて練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○学習した以外の文字でも、文字の形に気をつけて書く。	アイ	B: 文字の外形を理解し、練習文字のまわりを「しかく」「さんかく」「まる」に囲んでいる。 おおよその形に気をつけて書いている。 A: 文字の外形をよく理解し、練習文字のまわりを「しかく」「さんかく」「まる」に囲んでいる。 おおよその形に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: おおよその形を身近なものにたとえて、どのような形かを具体的に説明する。 外形が書いてある練習用紙の中に文字を書き、おおよその形を確かめられるようにする。	B: 文字のおおよその形について考えている。 A: 文字のおおよその形について、よく考えている。 支援: 文字のまわりを鉛筆で囲み、おおよそのような形になるか確かめられるようにする。	B: 文字のおおよその形に気づき、学習への意欲をもっている。 他の文字でも文字の形に気をつけて書くこととする意識をもっている。 A: 文字のおおよその形に気づき、積極的に学習に取り組もうとしている。 常に文字の形に気をつけて書くこととする意識をもっている。 支援: おおよその形を身近なものにたとえて、文字の形の違いが確かめられるようにする。 他の文字でも、文字の形の違うことに気づくようにはたらしかける。
	適時	21	【レッツ・トライ】一よこがきの かきかた	○横書きの書き方を理解することができる。 ○数字の書き順と字形に気をつけて書くことができる。	○横書きの書き方を理解して、『あくしゅ』を書く。 ○数字の書き順と字形に気をつけて書く。 ○書く位置や字形に気をつけて、『あくしゅ』と数字を書く。	アイウ	B: 横書きの書き方を理解して書いている。 A: 横書きの書き方を、よく理解して書いている。 支援: 数字の書き方についても、誤りやすい例をあげながら、正しい字形を確かめられるようにする。 十字線を入れたます目用紙を使って、正しい位置を確かめられるようにする。	B: 縦書きの書き方との違いについて考えている。 A: 縦書きの書き方との違いについて、よく考えている。 支援: 教科書を参照して、横書きの場合の拗音・促音などの正しい位置が確かめられるようにする。	B: 横書きの書き方について知り、学習への意欲をもっている。 他の言葉でも、横書きの書き方に気をつけて書くこととする意識をもっている。 A: 横書きの書き方について知り、積極的に学習に取り組もうとしている。 常に横書きの書き方に気をつけて書くこととする意識をもっている。 支援: 拗音・促音、句読点は、ます目の中のどの位置に書くのか、確かめられるようにする。
	1	22・23	⑧ひらがなの ひょう	○平仮名の書き順と字形に気をつけて、正しく書くことができる。	○まちがえやすい書き順の文字や、送筆・終筆の難しい文字を書く。 ○教科書22・23ページを参照しながら、書き順、送筆・終筆を確かめて、練習する。 ○書き順や字形を確かめて自己評価する。 ○先生や友達の名前を正しく書く。	アイウ	B: 平仮名の正しい書き順や字形について理解している。 平仮名の書き順や字形に気をつけて書いている。 A: 平仮名の正しい書き順や字形について、よく理解している。 平仮名の書き順に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: 正しい書き順や字形について、平仮名の表で確かめられるよう促す。 まちがえやすい書き順や字形について具体的に説明する。	B: 平仮名の書き順や字形について考えている。 A: 平仮名の書き順や字形の良さあしについて、考えている。 支援: 拡大文字や色分け文字などを使って、正しい書き順や字形が確かめられるようにする。	B: 平仮名の表を見ながら、先生や友達の名前やさまざまな言葉を書く活動に、取り組もうとしている。 A: 平仮名の表を見ながら、先生や友達の名前やさまざまな言葉を書く活動に、積極的に取り組もうとしている。 支援: これまでの学習を想起して、書き順や字形に気をつけて書くよう呼びかける。 書写の授業以外でも、書き順や字形に気をつけて平仮名を書くよう意識づける。
	適時	24・25	【レッツ・トライ】かいてみよう!	○学習したことを生かして、字形や書き順に気をつけて、丁寧に書くことができる。 ○日記や観察したことを記録する文章を書くことができる。	○横書き、縦書きの書き方を理解する。 ○「とめ」「はね」「はらい」に気をつけて練習する。 ○字形や書き順に気をつけて練習する。	アイウ	B: 縦書き、横書きの書き方を理解して書いている。 A: 縦書き、横書きの書き方を、よく理解して書いている。 支援: 数字の書き方についても、誤りやすい例をあげながら、正しい字形を確かめられるようにする。 十字線を入れたます目用紙を使って、正しい位置を確かめられるようにする。	B: 縦書きの書き方との違いについて考えている。 A: 縦書きの書き方との違いについて、よく考えている。 支援: 教科書を参照して、横書きの場合の拗音・促音などの正しい位置が確かめられるようにする。	B: 横書きの書き方について知り、学習への意欲をもっている。 他の言葉でも、横書きの書き方に気をつけて書くこととする意識をもっている。 A: 横書きの書き方について知り、積極的に学習に取り組もうとしている。 常に横書きの書き方に気をつけて書くこととする意識をもっている。 支援: 拗音・促音、句読点は、ます目の中のどの位置に書くのか、確かめられるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9月 (3時間)	3	26	3 かたかなの がくしゅう ①かたかなの かきかた	○片仮名の終筆（「とめ」「はね」「はらい」と送筆（「おれ」「まがり」）に気をつけて、正しく書くことができる。	○片仮名について知っていることを話し合う。 ○『レモン』『カメラ』を空書してから鉛筆で試書する。 ○送筆と終筆に気をつけて鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○巻末の「かたかなの ひょう」から、「とめ」「はね」「はらい」「おれ」「まがり」のある文字を探して発表し合う。	アイウ	B: 片仮名の終筆と送筆の書き方について理解している。 終筆と送筆を正しく書いている。 A: 片仮名の終筆と送筆の書き方について、よく理解している。 字形を整えて、終筆と送筆を書いている。 支援: 「とめ」「はね」「はらい」は動作化し、「おれ」「まがり」は視覚的に表現するなどして、理解を促す。 平仮名と異なる部分について注意を促す。	B: 片仮名の終筆と送筆の書き方について考えている。 A: 片仮名の終筆と送筆の書き方の良さあしを考えている。 支援: 平仮名で学習した終筆と送筆の書き方を想起するよう促す。	B: 片仮名の終筆と送筆の書き方に気をつけて書こうとしている。 他の片仮名の言葉でも終筆と送筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 片仮名の終筆と送筆の書き方に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に片仮名の終筆と送筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 拡大文字や水書用紙などを使って、終筆と送筆の書き方について関心を高める。 学習した以外の文字でも、同じ書き方があることに気づくようにはたらきかける。
		27	②じの かたち	○片仮名の外形の違いを理解して、正しく書くことができる。	○『ウ』『ユ』『ト』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて片仮名の外形について話し合う。 ○教科書の『ウ』『ユ』『ト』の文字のまわりの点線を鉛筆で囲み、文字の形を理解する。 ○促音・拗音を書く位置や、音引・濁音、半濁音の書き方を確かめる。 ○他の文字も外形に気をつけて書く。	アイ	B: 片仮名のおおよその形を理解している。 片仮名の外形に気をつけて、正しく書いている。 A: 片仮名のおおよその形の違いを、よく理解している。 片仮名の外形の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: おおよその形を身近なものにたとえて、どのような形か具体的に説明する。 外形が書いてある練習用紙の中に文字を書き、おおよその形を確かめられるようにする。	B: 片仮名の外形について考えている。 A: 片仮名の外形の違いについて考えている。 支援: おおよその形を身近なものにたとえて、外形が確かめられるようにする。	B: 片仮名の外形に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも、文字の外形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 片仮名の外形の違いに気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に文字の外形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: おおよその形をかたどったものを使って、形の違いに気づくようにはたらきかける。 学習した以外の文字でも、外形に気をつけて書くよう、仲間の漢字を示して意識づける。
		28・29	③にて いる じ	○文字の形が似ている片仮名を、点画の方向の違いを理解して、正しく書くことができる。 ○片仮名と平仮名の違いを理解して、片仮名で書く言葉を正しく書くことができる。	○『ソ』『ツ』『ン』『シ』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて画の方向の違いについて話し合う。 ○『ソ』『ツ』『ン』『シ』を指でなぞりながら、書き方を確かめる。 ○「点」や「はらい」の方向の違いに気をつけて、鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○『か』『き』『せ』『も』『や』の平仮名と片仮名を比べて、違いを話し合う。 ○片仮名で書く言葉を探して、平仮名との違いに気をつけて書く。	アイウ	B: 「点」と「はらい」の方向について理解している。 「点」と「はらい」の方向に気をつけて書いている。 片仮名と平仮名の違いを理解して書いている。 A: 「点」と「はらい」の方向の違いを、よく理解している。 片仮名と平仮名の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: おおよその形を身近なものにたとえて、どのような形かを具体的に説明する。 外形が書いてある練習用紙の中に文字を書き、おおよその形を確かめられるようにする。	B: 払う方向の違いについて考えている。 片仮名と平仮名の形の違いについて考えている。 A: 払う方向の違いについてよく考えている。 片仮名と平仮名の字形の違いについてよく考えている。 支援: 『ツ』は「つ」、『シ』は『し』の運筆方向で書くこと間違えずに書けるなどの例示をして、筆順と字形が確かめられるようにする。	B: 片仮名と平仮名の形の違いに気をつけて書こうとしている。 他の文字でも、片仮名の字形に気をつけて書こうとしている。 A: 片仮名と平仮名の形の違いに気をつけて、積極的に書こうとしている。 他の文字でも、常に字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: おおよその形をかたどったものを使って、字形の違いに気づくようにはたらきかける。 学習した以外の文字でも、字形に気をつけて書くよう、仲間の漢字を示して意識づける。
10月 (4時間)	2	30・31	4 かん字の 学しゅう ①かくの おわりの かきかた	○漢字の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）の書き方を理解することができる。 ○漢字の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）の書き方に気をつけて、正しく書くことができる。	○『一』『小』『人』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて「とめ」「はね」「はらい」の違いについて話し合う。 ○『一』『小』『人』を指でなぞりながら、書き方を確かめる。 ○終筆の書き方に気をつけて鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○巻末漢字表から「とめ」「はね」「はらい」のある文字を探し、発表し合う。	アイウ	B: 終筆の書き方を理解している。 終筆を正しく書いている。 A: 終筆の書き方の違いを理解している。 字形を整えて、終筆を書いている。 支援: 終筆の書き方を動作や言葉で表して理解を促す。 字形が整っていない文字例を提示して、終筆の正しい書き方と比べてみるることができるようにする。	B: 終筆の書き方について考えている。 A: 終筆の書き方の良さあしを考えている。 支援: 平仮名や片仮名で学習した終筆の書き方を想起するよう促す。	B: 終筆の書き方に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも終筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 終筆の書き方に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に終筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 拡大文字や水書用紙などを使って、終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、同じ書き方があることに気づくようにはたらきかける。
		32	②かくの とちゅうの かきかた	○漢字の送筆（「おれ」「まがり」「そり」）を理解することができる。 ○漢字の送筆（「おれ」「まがり」「そり」）に気をつけて、正しく書くことができる。	○『日』『七』『子』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字と比べて話し合う。 ○送筆の書き方を確かめて、鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○『百』『山』『九』『見』『字』『手』を鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字と比べて、どの部分が「おれ」「まがり」「そり」かを話し合う。 ○巻末漢字表から「おれ」「まがり」「そり」のある文字を探し、発表し合う。	アイウ	B: 送筆の書き方について理解している。 送筆を正しく書いている。 A: 送筆の書き方の違いについて、よく理解している。 字形を整えて送筆を書いている。 支援: 送筆の書き方を「ぐうっ」と唱えたり、動作やイラストで表したりすることで理解を促す。 字形が整っていない文字例を提示して、送筆の正しい書き方と比べてみるることができるようにする。	B: 送筆の書き方について考えている。 A: 送筆の書き方の良さあしを考えている。 支援: 平仮名や片仮名で学習した送筆の書き方を想起するよう促す。	B: 送筆の書き方に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも送筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 送筆の書き方に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に送筆に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 拡大文字や水書用紙などを使って、送筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、同じ書き方があることに気づくようにはたらきかける。
11月 (4時間)	2	33	③文字の かたち	○漢字の外形の違いを理解することができる。 ○漢字の外形の違いに気をつけて、正しく書くことができる。	○『目』『二』『八』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○試書と教材文字と比べて文字の形について話し合う。 ○文字の形に気をつけて練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○巻末漢字表から同じような外形の文字を探して仲間分けを行い、発表し合う。	アイ	B: 文字の外形を理解し、練習文字のまわりを囲んでいる。 外形の違いに気をつけて書いている。 A: 文字の外形をよく理解し、練習文字のまわりを囲んでいる。 外形の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: おおよその形を身近なものにたとえて、どのような形かを具体的に説明する。 外形が書いてある練習用紙の中に文字を書き、おおよその形を確かめられるようにする。	B: 文字の外形の違いを考えている。 A: 文字の外形の違いを、よく考えている。 支援: 文字のまわりを鉛筆で囲み、おおよそどのような形になるか確かめられるようにする。	B: 文字の外形の違いに気づき、学習への意欲をもっている。 他の文字でも文字の形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 文字の外形の違いに気づき、積極的に学習に取り組もうとしている。 常に文字の形の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: おおよその形を身近なものにたとえて、文字の形の違いが確かめられるようにする。 学習した以外の文字でも、文字の形の違いがあることに気づくようにはたらきかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	2	34・35	④かきじゅん	○書き順の原則（上から下へ、左から右へ、横から縦へ）を理解することができる。 ○書き順に従って、文字を正しく書くことができる。	○『三』『川』『十』の書き順を声に出しながら空書し、鉛筆で試書する。 ○正しい書き順で書く利点を確かめる。 ○書き順の原則を確かめながら練習する。 ○これまでに学習した文字についても、書き順の原則にあてはめて書く。	アイウ	B: 書き順の原則を理解している。書き順の原則に従って、正しく書いている。 A: それぞれの文字の書き順の違いについて、よく理解している。書き順の原則に従って、字形を整えて書いている。 支援: 教科書の脚注や巻末漢字表などを使って、正しい書き順について理解を促す。書き順を声に出しながら書けるようにする。	B: 書き順の原則について考えている。 A: 書き順の原則や字形について、よく考えている。 支援: 色分け文字などを使って、正しい書き順が確かめられるようにする。	B: 書き順の原則に気をつけて書こうとしている。他の文字でも、書き順の原則に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 書き順の原則に気をつけて、意欲的に書こうとしている。常に書き順の原則に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援: 書き順を色分けした文字などを使って、書き順に原則があることに気づくようにはたらきかける。学習した以外の文字でも、書き順に従って書くように意識づける。
12月 (3時間)	3	36・37	⑤かきぞめ	○書き出しの位置や、句読点を書く位置に気をつけて、正しく書くことができる。 ○鉛筆やフェルトペンを正しく持ち、書き順や字形（「とめ」「はね」「はらい」「おれ」）に気をつけて、丁寧に書くことができる。	○フェルトペンの持ち方を理解する。 ○フェルトペンの持ち方に気をつけて『お正月』を試書する。 ○「とめ」「はね」「はらい」「おれ」に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて自己評価する。 ○書き順や字形、まず目の中を書く位置に気をつけて、教材文を書き、自己評価する。 ○「お正月にしたいこと」などを自分で考えた文を書く。	アイウ	B: 書き出しの位置や、句読点を書く位置、書き順や字形について理解して書いている。 A: 書き出しの位置や、句読点を書く位置、書き順や字形についてよく理解し、字形を整えて書いている。 支援: 自分が書いた文字について、正しい文字と比べてみるができるようにする。今までの学習を想起しながら、書き順や字形に気をつけるよう呼びかける。	B: 書き出しの位置や、句読点を書く位置について考えている。書き順や字形について考えている。 A: 書き出しの位置や、句読点について、よく考えている。書き順や字形について、よく考えている。 支援: 今までに学習した内容を確認できるようにする。	B: 書き出しの位置や、句読点を書く位置に気をつけて書こうとしている。書き順や字形に気をつけて書こうとしている。他の文字でも書き出しの位置や、句読点を書く位置、書き順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 書き出しの位置や、句読点を書く位置、書き順や字形に気をつけて、積極的に書こうとしている。常に書き出しの位置や、句読点を書く位置、書き順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 今までの学習を想起しながら、苦手とする部分について重点的に取り組むようにはたらきかける。学習した以外の文字でも気をつけて書くよう意識づける。
1月 (2時間)	2	38・39	⑥かくのながさとほうこう	○画の長さの違いを理解することができる。 ○画の長さの違いに気をつけて、正しく書くことができる。 ○「おれ」の方向の違いを理解することができる。 ○「おれ」の方向の違いに気をつけて、正しく書くことができる。	○『土』『川』『夕』を空書してから、鉛筆で試書する。 ○『土』『川』『夕』の画の短長について話し合い、方向の違いを理解する。 ○画の長さに気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて評価する。 ○『円』『白』を鉛筆で空書してから、試書する。 ○『円』『白』の画の方向の違いについて話し合い、理解する。 ○画の方向に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて評価する。	アイウ	B: 画の長さの違いについて理解している。「おれ」の方向の違いについて理解している。画の長さについて書いている。「おれ」の方向に気をつけて書いている。 A: 画の長さの違いについて、よく理解している。「おれ」の方向の違いについて、よく理解している。画の長さについて、字形を整えて書いている。「おれ」の方向に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: 拡大文字などを使って、画の長さや「おれ」の方向の違いを比べてみるができるようにする。どの画を長く書くのかを具体的に説明する。「おれ」の方向の違いについて、具体的に説明する。	B: 画の長さの違いについて考えている。「おれ」の方向の違いについて考えている。 A: 画の長さの違いについて、よく考えている。「おれ」の方向の違いについて、よく考えている。 支援: 拡大文字などを使って、画の長さや方向の違いが確かめられるようにする。	B: 画の長さについて書こうとしている。「おれ」の方向の違いに気をつけて書こうとしている。他の文字でも画の長さについて書こうとする意識をもっている。他の文字でも「おれ」の方向に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 画の長さについて、意欲的に書こうとしている。「おれ」の方向の違いに気をつけて、積極的に書こうとしている。常に画の長さの違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。常に「おれ」の方向の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 教科書のイラストなどを使って、画の長さや方向について関心を高めよう促す。学習した以外の文字でも、画の長さの違いや「おれ」の方向の違いがあることに気づくようにはたらきかける。
1・2月 (3時間)	2	40・41	【かいて つたえあおう】 ありがとうカードをかこう	○学習したことを生かして、字形や書き順に気をつけて、丁寧に書くことができる。	○横書きの書き方を理解する。 ○メッセージを贈りたい相手と内容を考えて試書し、基準と照らし合わせて、自己批評する。 ○字形や書き順に気をつけて練習する。 ○まとめ書きしたカードを交換し合い、相互評価をする。	アイウ	B: カードの書き方について理解している。字形や書き順に気をつけて書いている。 A: カードの書き方について、よく理解している。字形や書き順に気をつけて、丁寧に書いている。 支援: 教科書の作例を提示するなどして、書き方について理解を促す。巻末漢字表などを活用し、字形や書き順を確かめられるようにする。	B: カードの書き方について、考えている。 A: カードの書き方について、よく考えている。 支援: 教科書の作例を提示するなどして、書き方について考えるよう促す。	B: 友達に贈るカードを、相手意識をもって意欲的に書こうとしている。他の学習場面においても、相手のことを考えて丁寧に書く意識をもっている。 A: 友達に贈るカードを、相手意識をもって、積極的に書こうとしている。常に相手のことを考えて、丁寧に書く意識をもっている。 支援: メッセージを伝えたい相手とその内容について考えることができるよう、具体例をもとに促す。他の学習場面においても、字形に気をつけて丁寧に書くよう意識づける。
	1	42	【しりたい文字のせかい】 なんの かたちからできた かん字かな	○自然の形からできた漢字があることを知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○教科書に提示された絵を見て、どんな漢字ができあがるのか予想して、話し合う。 ○学習した漢字を使い、言葉や文を書く。 ○書いたものを紹介し合い、発表する。	アイウ	B: 漢字の成り立ちについて理解している。学習した漢字について、字形に気をつけて書いている。 A: 漢字の成り立ちについて、よく理解している。学習した漢字について、字形を整えて書いている。 支援: 漢字の成り立ちを視覚的にとらえられるようにする。今までの学習を生かして、丁寧に書くように助言する。	B: 漢字の成り立ちについて考えている。 A: 漢字の成り立ちについて、よく考えている。 支援: 教科書の成り立ちクイズに取り組むなど、成り立ちについて考えるよう支援する。	B: 漢字の成り立ちに対する興味・関心をもって書こうとしている。他の漢字についても、その成り立ちについて関心をもっている。 A: 漢字の成り立ちに対する興味・関心を持ち、積極的に書こうとしている。他の漢字についても、その成り立ちについて関心をもって調べている。 支援: 教科書の図版を拡大提示し、関心を高める。他の漢字についても、成り立ちについて関心が高まるようにはたらきかける。
3月 (3時間)	2	43	学しゅうの まとめ	○1年間の書写学習を振り返り、学習した内容を確認することができる。 ○字形や書く位置に気をつけて、丁寧に書くことができる。	○これまでの学習を振り返り、自分の名前を書く。 ○「とめ」「はね」「はらい」などに気をつけて練習する。 ○姿勢・持ち方が正しくできたか相互評価する。	アイウ	B: 文字の形や書く位置について理解している。字形や書く位置に気をつけて書いている。 A: 文字の形や書く位置について、よく理解している。書く位置に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: 字形や書く位置について確かめられるようにはたらきかける。字形や書く位置について確かめられるようにはたらきかける。	B: 今まで学習した内容について考えている。 A: 今まで学習した内容について、よく考えている。 支援: 今まで学習した内容を、教科書を見ながら想起するようにはたらきかける。	B: 学習したことを生かして書こうとしている。他の文章でも、字形や書く位置に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 学習したことを生かして、積極的に書こうとしている。常に字形や書く位置に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援: 今まで学習した内容について、グループで話し合うよう促す。学習した以外の文章でも、字形や書く位置に気をつけて、丁寧に書くよう意識づける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1		44	【かん字の ひょう】 一年生で 学しゅうす る かん字	○1年生で学習した終筆 （「とめ」「はね」「はら い」）や送筆（「おれ」 「まがり」「そり」）など の漢字の書き方を確かめる ことができる。	○書き順のきまり、終筆や送 筆の書き方、文字の外形を確 かめる。 ○漢字表から「とめ」のある 漢字、「はね」のある漢字な どを探して書く。 ○練習した漢字の中から、難 しいと思った漢字を三つ選ん で書く。	アイウ	B: 終筆・送筆の書き方や、書き順や 字形について理解している。 送筆・終筆などの違いによって、漢字 の仲間集めなどを行っている。	B: 終筆・送筆の書き方や、書き順や 字形の良さあしを考えている。	B: 終筆・送筆の書き方や、書き順や 字形を確かめようとしている。 他の文字でも終筆・送筆の書き方や、 書き順や字形に気をつけようとする意 識をもっている。
適時		45・46	しょしゃの たいそう	○1年生で学習した始筆、 送筆、終筆の書き方につい て、興味・関心を高めなが ら確かめることができる。	○教科書30～32ページを見直 し、『一』『小』『人』 『日』『七』『子』の中にあ る点画の名前を確かめる。 ○机の後ろに立ち、それぞ れの点画について、教師の身振 りに合わせて、声を出しなが ら動作を行う。 ○慣れてきたら、教師が「お れ」と声がけをしたら、児童 が「おれ」の動作をする。	アイウ	B: 始筆、送筆、終筆の書き方につ いて理解している。	B: 始筆、送筆、終筆の書き方につ いて考えている。	B: これまでに学習した始筆、送筆、 終筆の書き方について確かめようとし ている。 他の文字でも始筆、送筆、終筆の書 き方に気をつけようとする意識をもっ ている。
		47～ 49	【かたかなの ひよ う】 すいしょうしの つ かいかた もくじ	○片仮名の書き順や字形、 拗音・促音・音引きなどの 書くきまりを確かめること ができる。 ○片仮名の言葉を探す活動 に、意欲的に取り組むこと ができる。	○「かたかなの ひょう」を 見て、片仮名の書き順や字形 を確かめる。 ○長音、拗音、促音、句読 点、「かぎ」の書くきまりを 確かめる。 ○片仮名の下に例示されてい る言葉（『アイロン』など） を練習する。 ○他にも片仮名の言葉を探し て書く。	アイウ	B: 片仮名の筆順や字形について理解 している。	B: 片仮名の字形や筆順について考 えている。	B: 片仮名の筆順や字形を確かめてい る。 片仮名の言葉を探している。 常に片仮名の筆順や字形を確かめよ うとする意識をもっている。
							A: 終筆・送筆の書き方や、書き順や字 形について、よく理解している。 終筆・送筆などの違いによって、漢字 を正しくグループ分けしている。	A: 終筆・送筆の書き方や、書き順や字 形の良さあしについて、よく考えてい る。	A: 終筆・送筆の書き方や、書き順や字 形に気をつけて、積極的に書こうとし ている。 常に終筆・送筆の書き方や、書き順や 字形に気をつけようとする意識をもっ ている。
							支援: 拡大文字などを使って、終筆・ 送筆の書き方や、筆順や字形などを比 べてみるができるようにする。 どの文字のどのようなところに着目し て探すか、具体的に説明する。	支援: 拡大文字などを使って、終筆・ 送筆の正しい書き方や字形などが確か められるようにする。	支援: 漢字表の中で、同じ書き方がある 漢字の仲間集めをして関心を高める ようにする。学習した以外の文字で も、気をつけるよう意識づける。
							A: 始筆、送筆、終筆の書き方につ いて、よく理解している。	A: 始筆、送筆、終筆の書き方につ いて、よく考えている。	A: これまでに学習した始筆、送筆、終 筆の書き方について、積極的に確かめ ようとしている。 常に始筆、送筆、終筆の書き方に気 をつけようとする意識をもっている。
							支援: 理解できない書き方に焦点化し て、個別に支援する。	支援: 字形と動作が対応しにくい場合 は、「おれ」と「まがり」の違いな ど、比較をとおして確かめられるよ うにする。	支援: 動作がとりにくい場合は、教師 や周りの児童の動作を見ることで理解 できるよう、声がけをする。 学習した以外の文字でも、気をつける よう意識づける。
							A: 片仮名の筆順や字形について、よく 理解している。	A: 片仮名の字形や筆順について、よく 考えている。	A: 片仮名の筆順や字形を、積極的に確 かめている。 片仮名の言葉を、積極的に探してい る。 常に片仮名の筆順や字形を確かめて、 丁寧に書こうとする意識をもってい る。
							支援: ふだん、字形が整えにくい文字 に関して、教科書を見ながら確認でき るようにする。	支援: 間違えやすい片仮名の字形につ いて、重点的に確かめられるように呼 びかける。	支援: 間違えやすい筆順について、重 点的に確かめられるように呼びかけ る。 書写の授業以外でも、常に気をつける よう意識づける。